る、

**お話 黒井 秋夫さん**

**<はじめに>**

**いまＮＨＫ**

**の報道などで**

**衝撃が広がっ**

**ている**

　講演に先立

ち、約30分に

編集されたＮＨＫBS１スペシャル「隠された日本兵のトラウマ」などの映像が紹介された。国府台陸軍病院に入院している日本兵患者がベッ

第**203**号

**5月3日**

**２０２２年**

**発行:調布九条の会「憲法ひろば」**

----------------------------------------------------------

〒182-0022 調布市国領町2-5-15 あくろす2階

市民活動支援センター内メールボックス６番

-----------------------------------------------------------

郵便振替**00170-6-445473** 加入者名**大野哲夫**

**E-Mail：choufu9jou@yahoo.co.jp**

**WEBサイトhttp://choufu9jou.sakura.ne.jp**





**第１７６回**

**憲法ひろば**

\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*\*

　調布｢憲法ひろば｣は2022年4月30日13時半からあくろすホールで第176回例会を開催。黒井秋夫さん**（「PTSDの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」「PTSDの日本兵と家族の交流館」代表､写真右）**から「日本兵のＰＴＳＤ」と題してお話をいただいた。リアル参加38人､オンライン参加5人。司会は岩本努世話人､記録は佐藤定夫さんにお願いした。**（編集部）**

**夢にもおもわなかったＰＴＳＤ**

　いま見てもらった国府台陸軍病院の映像は、国民にその存在が隠されてきた。当時の病院長によって、医師たちにも50年間のかん口令が敷かれた。２０１７年に初めて公開され、ＮＨＫが18年に放映した。どこの国の兵士もかかる「砲弾病」が、「皇軍兵士に限って皆無」という陸軍のウソを、マスコミも大見出しで報じていた。戦争神経症の兵士を「皇軍の兵士にあってはならない恥ずべき兵士像」として存在を隠した。

　戦場から帰ってきた父親が、家族に暴力をふるう、酒におぼれる、無気力になって働かないなどさまざまな症状をみせても、家族は戦争が原因の障害だとは夢にも思わなかった。

**ずっと父が嫌いだった**

　私は、ずっと父が嫌いだった。戦争から帰ってきた父は定職につかず、失業手当がもらえる期間だけ働くという暮らしをしていた。家はとても貧乏だった。無口・無気力で、人間としても親としても、とても尊敬できなかった。

　私は２０１５年にピースボートに乗り、船内の企画でベトナム戦争のアメリカ軍帰還兵アレン・ネルソンさんのＤＶＤを見た。「戦場体験で心が壊れてしまった。恐ろしい光景が夢に出てくる。昔の自分には戻れない」と沈痛に話すアレンさんと、父の無口な暗い顔が重なった。

**帰還兵８３０万人のうち約３００万人がＰＴＳＤ**

　ベトナム戦争、アフガン、イラク戦争に従軍したアメリカ兵の20～50％がＰＴＳＤで復員したとされる。これをアジア太平洋戦争の日本軍兵士に換算すると、復員兵８３０万人（１９４５年～）だから約300万人がＰＴＳＤを発症したと類推できる。殺人、自殺、暴力、麻薬やアルコール中毒、ギャンブル依存症、無気力などで家族を苦しめた。しかし現実にはＰＴＳＤの日本軍兵士の存在は無いものとされ、闇に葬られた。

　教科書に書かれていない。歴史書にも書かれていない。私は大学で東洋史を学んだが、一度も日本軍兵士のＰＴＳＤに触れた本を読んだことがない。２０１８年のＮＨＫ「隠された日本兵のトラウマ」までいっさい報道もされていない。

　活動組織・記念館は私が「ＰＴＳＤの復員日本兵と暮らした家族が語り合う会」（18年）「ＰＴＳＤの日本兵と家族の交流館」（20年）をつくるまで存在しなかった。

**手のひら返しの日本社会**

　彼ら兵士たちは「神国日本」と信じこまされ、日章旗を振り盛大に戦地に送り出された。帰ってきたら、命をかけて戦った戦争が全く価値がないと全否定された。自分の長男（黒井秋夫の兄）が黒塗りの教科書で教育されている日本に帰還した。なにが正しいのか、間違いなのか判断できない。生きる羅針盤を失った。無口になるしかなかった。手のひら返しの日本社会の中で、ＰＴＳＤに苦しむ兵士と家族たちは放置された。

　日本軍兵士は、アジアの人々に対して加害者だった。加害行為に気付き、謝罪し、被害者から赦しで返されたとき、はじめて救われ、和らぎ、解放される。

　戦争の責任者（天皇、軍、政府）が戦争加害を認めず、謝罪もしていない。昭和天皇は1年に1回、敗戦の日に「心の痛むのを覚える」などと口をぬぐってきた。もし天皇が戦争責任を認める発言をしていたら、父のＰＴＳＤも少しは軽かったのではないか。

**白旗を掲げましょう**

　戦争は絶対悪だ。話し合いだけが解決の道。軍事基地も、兵器・武器も地球上に必要ない。世界の隅々に白旗を掲げよう。世界中の家々で白旗を掲げよう。

　いかなる理由があろうと戦争に賛成しない。ウクライナとロシアの国民と兵士の命を守ろう。私がウクライナの大統領ならばロシア軍侵攻前に、国民に白旗を上げるようにお願いした。

　子どもたちに「戦争だけはしてはならない」と伝えるために「交流館」では、日章旗、軍帽、銃弾など、触れることのできる展示をしている。ＰＴＳＤ兵士と苦しむ家族をこれ以上生まないために、戦争のない社会をめざそう。

**<おわりに>**

**すごい迫力・熱量**

　父を想起するときに涙し、会場からの発言に全力でこたえる。黒井さんの迫力と熱量に圧倒された２時間半でした。70年間秘匿されてきた日本軍兵士のＰＴＳＤという問題に目を見開かされた貴重な講演でした。

**（佐藤 定夫・記）**

　　ドで痙攣してい

　　るシェルショッ

　　ク（砲弾ショッ

　 クとも呼ばれる

　 戦争神経症）症

状のなまなましい映像。ＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）の日本兵がいることの証拠映像は２０１７年にはじめて封印を解かれた。

**日本兵のＰＴＳＤは70年間隠蔽されていた**

